

鳳凰座

鳳凰座の大本は地元、御厩野の日枝神社境内にあった野外舞台でした。歌舞伎小屋は数少ない娯楽の 1 つであったため、江戸時代（1603 年-1867 年）には田舎で非常に人気がありました。1827 年頃舞台は解体されて現在の場所に再建され、最終的に舞台の周りに恒久的な構造物が建てられました。

鳳凰座が長く続いているのは素人役者による草の根歌舞伎である地歌舞伎に対する地元コミュニティの情熱のおかげです。近隣の日枝神社と熊野神社の祭りの一環として毎年 5 月 3 日と 4 日にこの小屋で公演が開催されます。約 600 人の観客を収容できます。

鳳凰座村芝居保存会は 1961 年の結成以来この芝居小屋を管理してきました。この会は素人俳優と芝居小屋の熱心なファンによって作られました。1998 年には「忠臣の宝物」の上演が大成功を収め、大阪と名古屋で公演を行いました。この公演は 2018 年にフランスのパリとスペインのサラマンカでも再演されました。この保存会は歌舞伎に加え日本の伝統的な弦楽器である三味線の次世代の演奏家や、芝居の動きに合わせてストーリーを語る太夫の育成を目指しています。